

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 ゲーム CG 学科 2 年

| 科 目 名 | キャリアガイダンス (688) | | | | 教 科 区 分 | 一般教育科目 |
|---|--------------------|------|------|------|---------|--------|
| 担当教員 | | | | | 必修 / 選択 | 必 修 |
| | | | | | | |
| 週 授 業 時 間 数 | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | | |
| | - | 2 | - | - | | |
| 科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標 | | | | | | |
| 仕事をしていく上で必要となるビジネススキル向上を目的とするとともに、就職活動がスムーズに進めることができるように、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識および、ふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。 | | | | | | |
| 授業形態 | 演習 | 教 室 | 各教室 | 補助教員 | なし | |
| 就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識およびふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。 | | | | | | |
| 教 科 書 教 材 | 仕事力を身に付ける 20 のステップ | | | | | |

授 業 計 画 ・ 内 容

●授業時間：2 単位時間/回

【前期】

- 1回 サンクスドリルの意義と使い方
- 2~3回 就活とコミュニケーションのつながりを理解する
- 4~6回 意見をつくる力
- 7~9回 聞く力・話す力
- 10~12回 自己理解
- 13~15回 仕事理解
- 16回 サンクスドリル基礎学力テスト

●授業時間：2 単位時間/回

【後期】

- 1~3回 自己 PR 作成
- 4~6回 先輩トークセッション
- 7~9回 就活成功 3ヶ条
- 10~12回 選考基礎（ビジネスマナー、敬語等）、書類選考（ガクチカ作成体験）
- 13~15回 面接（個人・グループディスカッション）
- 16回 サンクスドリル基礎学力テスト

評価コード

11

| | |
|---------|---|
| 評 価 方 法 | <ul style="list-style-type: none"> ・100 点を満点とし、筆記試験を 60 点、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。 |
|---------|---|

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 ゲーム CG 学科 2 年

| 科 目 名 | ゲームデザイン(876) | | | | 教 科 区 分 | 専門教育科目 | | |
|--|----------------------|-------|--------|-------|---------|--------|---|---|
| 担当教員 | 川勝 徹 | | | | 必修 / 選択 | 必 修 | | |
| | 実 務 経 験 内 容 | | | | | | | |
| 週 授 業 時 間 数 | 1 年 次 | 2 年 次 | 3 年 次 | 4 年 次 | - | 2 | - | - |
| 科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標 | | | | | | | | |
| 本授業では、ゲームの企画書作成を学習する。抽象的でなく、楽しさの因果関係を学び、論理的に発想し、相手に理解できるような文章やレイアウトも意識し、コンセプトに沿った企画書作成を習得する。 | | | | | | | | |
| 授業形態 | 演習 | 教 室 | 341 教室 | 補助教員 | なし | | | |
| 授業は講義形式であるが、理解度を深めるためにノート型パソコンを使った実習も行う。都度、ゲームの企画書を作成し、プレゼンテーションも行う。また課題の提出方法については、その都度説明する。 | | | | | | | | |
| 教 科 書 教 材 | 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用） | | | | | | | |

授 業 計 画 ・ 内 容

● 授業時間：2 単位時間/回

【前期】

- 1～2回 ゲームデザイン概要と「面白い」と感じるしくみ
- 3～5回 組織開発における伝達演習、仕組みの構成要素、制約と意欲
- 6～9回 アイディアの発想方法（分解、視点、組み合わせ、動詞）
- 10～11回 ゲームのコアループ
- 12～16回 企画書作成とレビュー

● 授業時間：2 単位時間/回

【後期】

- 17～19回 プレーヤーの目的と手段、楽しさを喚起の感情の仕組み、思考認知
- 20～23回 名作に学ぶゲームデザインの仕組み研究
- 24～26回 「すごろく」ゲーム演習によるレベルデザイン、チュートリアルデザイン
- 27～32回 企画書作成とレビュー

評価コード

11

| | |
|---------|--|
| 評 価 方 法 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 100 点を満点とし、筆記試験を 60 点、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点とする。 ・ 通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・ 成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。 |
|---------|--|

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 ゲーム CG 学科 2 年

| 科 目 名 | 造形制作(869) | | | | 教 科 区 分 | 専門教育科目 | | |
|--|---|-------|---------------------|-------|-------------|--------|--|--|
| 担当教員 | 土岐 一仁・西 哲郎・岩崎 隆男・三宅 由里子・坂場 加奈子 | | | | 必修 / 選択 | 必 修 | | |
| 週 授 業 時 間 数 | 1 年 次 | 2 年 次 | 3 年 次 | 4 年 次 | 実 務 経 験 内 容 | | | |
| CG 制作においてもアナログ制作においても、魅力的な作品を仕上げるために「観察力」「発想力」「表現力」が不可欠である。2 年次では構成デッサンや風景着彩などの高度なデッサン、デザインでは配色調和の知識と技術を深めていく課題に取り組むことで該当能力の向上を目指す。また、実践的な業務を想定し、納期と品質を意識しながら制作する習慣を身につけること、自身の造形能力を証明できる作品を創り上げることを目的とする。 | | | | | | | | |
| 授業形態 | 実習 | 教 室 | 第1デッサン室・ 第2デッサン室 | 補助教員 | なし | | | |
| [課題導入→制作→中間講評（制作途中アドバイス）→作品完成] を基本的な流れとし、デッサン／着彩／背景画／模写などの描画制作と、多様な出題に対するデザイン課題に取り組む。また継続練習として定期的にラフスケッチとクロッキーを行う。実習成果はすべて提出。提出期限と方法については、課題毎に連絡する。 | | | | | | | | |
| 教 科 書 教 材 | デッサン：スケッチで学ぶ美術解剖学 玄光社（授業内で適宜使用） 教材：デッサン、着彩用具一式（毎授業で使用） | | | | | | | |

| 授 業 計 画 ・ 内 容 | |
|--|--|
| ●授業時間：2 単位時間/回 | |
| 【前期】 | |
| 1～ 8 回 スケッチ&クロッキー/描画表現技法 I a 9～ 18 回 人体デッサン 19～ 24 回 着彩表現 25～ 36 回 自画像制作 37～ 44 回 背景画 45～ 51 回 スケッチ&クロッキー/キャラクターデザイン 52～ 58 回 構成デッサン 59～ 66 回 想定デッサン 67～ 68 回 スケッチ&クロッキー 69～ 74 回 描画表現技法 I b 75～ 80 回 立体制作 | |
| ●授業時間：2 単位時間/回 | |
| 【後期】 | |
| 81～ 84 回 スケッチ&クロッキー 85～ 92 回 構成デッサン 93～100 回 2 点透視背景 101～108 回 スケッチ&クロッキー/デッサン 109～116 回 色彩研究 117～124 回 着彩制作 125～144 回 デッサン 145～160 回 着彩制作 | |

| | | |
|---------|----|---|
| 評価コード | 13 | |
| 評 価 方 法 | | ・ 100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。 ・ すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・ 実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。 |

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 ゲーム CG 学科 2 年

| | | | | | | | | |
|--|----------------------|-------|--------|---------|-----------------------|--|--|--|
| 科 目 名 | ポートフォリオ演習(A53) | | | | 教 科 区 分 | 専門教育科目 | | |
| | | | | | 必修 / 選択 | 必 修 | | |
| 担当教員 | 土岐 一仁・中野 慎也 | | | | 実 務 経 驚 内 容 | | | |
| 週 授 業 時 間 数 | 1 年 次 | 2 年 次 | 3 年 次 | 4 年 次 | | [土岐]日本画家。日本美術院院友として創作活動、作品発表を行う。 [中野]ゲーム会社にて3Dモデル、エフェクト制作業務に従事。 | | |
| | - | 2 | - | - | 科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標 | | | |
| 就職活動で必要になるポートフォリオの制作について。レイアウトやデザイン、文章校正を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 授業形態 | 演習 | 教 室 | 341 教室 | 補 助 教 員 | なし | | | |
| 授業は講義形式であるが、ノート型パソコンを使った実習も行う。課題の提出方法については、その都度説明する。 | | | | | | | | |
| 教 科 書 教 材 | 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用） | | | | | | | |

授 業 計 画 ・ 内 容

●授業時間：2 単位時間/回

【前期】

- 1～2回 レイアウトの基礎
- 3～10回 制作とレビュー
- 10～16回 制作

●授業時間：2 単位時間/回

【後期】

- 17～20回 企業研究と希望職種に合わせたラフ案制作
- 20～32回 制作とレビュー

評価コード

11

| | |
|---------|--|
| 評 価 方 法 | <ul style="list-style-type: none"> ・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。 |
|---------|--|

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 ゲーム CG 学科 2 年

| 科 目 名 | コンポジット演習(A54) | | | | 教 科 区 分 | 専門教育科目 | | |
|---|---------------|-----------|-----------|-----------|---|--------|--|--|
| 担当教員 | 林 健二・世古 哲也 | | | | 必修 / 選択 | 必 修 | | |
| | 実務 経験 内 容 | | | | | | | |
| 週 授 業 時 間 数 | 1 年次 時 間 数 | 2 年次 4 | 3 年次 - | 4 年次 - | [林] ゲーム会社、遊技機会社での経験を活かし独立起業。現在は主に映像関連の業務を行っている。その知識と経験を活かして、表現、編集技術、エフェクトなどを講義する。 | | | |
| 科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標 | | | | | | | | |
| 遊技機エフェクトや VFX など映像コンテンツの基礎知識とそのソフトウェアの操作方法を知り、繰り返し課題を作成することにより、映像コンテンツの制作技術を向上させ、様々なジャンルのデジタルメディアの制作に応用できる知識の取得を目指す。またその際必要となる Maya の知識についても習得する。 | | | | | | | | |
| 授業形態 | 演習 | 教 室 | 166 教室 | 補助教員 | なし | | | |
| [課題導入→制作→アドバイス→作品完成] を基本的な流れとし、映像コンテンツに即した多様な課題に取り組む。実習成果はすべて提出。提出期限と方法については、課題毎に連絡する。 | | | | | | | | |
| 教 科 書 教 材 | 実習室パソコン | | | | | | | |

授 業 計 画 ・ 内 容

●授業時間：2 単位時間/回

【前期】

- 1回 AfterEffects の基本操作、アニメーション作成方法、マスク機能、トラックマット機能
 2～3回 シェイプを用いた応用アニメーション
 3～4回 3D レイヤーの使い方、3D レイヤーの応用
 4～7回 パーティクルの使い方・基礎・応用
 7～8回 Z デプスを使った表現、Maya との連携
 8～9回 フラクタルノイズ、グローなどを使った応用エフェクト
 10～12回 自己作品を紹介する映像制作

●授業時間：2 単位時間/回

【後期】

- 1回 Maya の MASH 機能を使った表現
 2～4回 炎エフェクトの作成
 5～6回 稲妻エフェクトの作成
 7～9回 パーティクルを使った軌跡表現
 9～10回 クロマキー機能、実写合成
 11～13回 マルチメディア演出で作成した動画を編集した映像制作

評価コード

11

| | |
|---------|--|
| 評 価 方 法 | <ul style="list-style-type: none"> 100 点を満点とし、筆記試験を 60 点、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点とする。 通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。 |
|---------|--|

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 ゲーム CG 学科 2 年

| 科 目 名 | 課題制作(887) | | | | 教 科 区 分 | 専門教育科目 | | |
|--|---|------|--------|------|--|--------|--|--|
| | | | | | 必修 / 選択 | 必 修 | | |
| 担当教員 | 世古 哲也・中野 慎也・神谷 淑貴 | | | | 実務 経験 内 容 | | | |
| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | [中野]ゲーム会社にて、CG デザイン、ディレクション業務を担当。 [神谷]CG 制作会社を経営し、3DCG を使った各種メディアの制作に携わる。また、20 年以上にわたり専門学校、大学にて CG、映像系の講師を担当する。 | | | |
| 週 授 業 時 間 数 | - | 10 | - | - | 科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標 | | | |
| ゲームや CG 関連企業に応募する際、必要となる作品を制作すると共に、各種コンテストに応募、入賞することを目標とする。完成後は、作品展示と発表会を実施する。展示や発表を行うことでプレゼンテーション能力を高め、作品 PR（自己 PR）能力の向上を目指す。 | | | | | | | | |
| 授業形態 | 実習 | 教 室 | 341 教室 | 補助教員 | なし | | | |
| 授業は実習形式のため、貸与ノート型パソコン、または実習室のデスクトップ型パソコンを使った作品制作を行う。制作した作品をもとに作品展示会、発表会を行い作品プレゼンテーションを行う。提出方法については、その都度説明する。 | | | | | | | | |
| 教 科 書 教 材 | 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用） 実習室パソコン（授業内で適宜使用） | | | | | | | |

授 業 計 画 ・ 内 容

● 授業時間：2 単位時間/回

【前期】

- 1 ~25 回 1 期制作 企画立案→制作・進捗報告→完成作品まとめ
 26~50 回 2 期制作 企画立案→制作・進捗報告→完成作品まとめ
 51~80 回 3 期制作 企画立案→制作・進捗報告→完成作品発表

● 授業時間：2 単位時間/回

【後期】

- 81 ~105 回 4 期制作 企画立案→制作・進捗報告→完成作品まとめ
 105~135 回 5 期制作 企画立案→制作・進捗報告→完成作品まとめ
 136~160 回 進級特別制作 企画立案→制作・進捗報告→完成作品発表

評価コード

13

| | |
|---------|---|
| 評 価 方 法 | <ul style="list-style-type: none"> 100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。 すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。 |
|---------|---|